



2014年10月15日

報道関係者各位

慶應義塾大学

慶應義塾大学工学部とフランス・グルノーブル市の研究機関が 連携協定を締結 ～日仏最先端国際研究連携拠点の形成に向けて～

慶應義塾大学工学部は、フランス・グルノーブル市のフランス原子力・代替エネルギー庁 (Commissariat à l'énergie atomique et aux énergies alternatives(以下、CEA))および国際的研究機関である国立科学研究センター (Centre National de la Recherche Scientifique (以下、CNRS))との間で、5年間の国際連携協定を2014年9月22日に締結しました。

CEAは、フランス・グルノーブル市に拠点を置く同国のマイクロ・ナノテクノロジー分野における世界最高峰の研究開発拠点である Micro and Nanotechnologies Innovation Campus (以下、MINATEC)を形成する中核機関であり、MINATEC および CNRS を中核として、最先端研究統合拠点である Grenoble Innovation for Advanced New Technologies (以下、GIANT)を形成しています。

GIANTは現在、研究者6,000名、学生5,000名、年間予算16億ユーロ、年間論文数5,000、1万平米のクリーンルームを有する欧州最大のマイクロ・ナノテクノロジー研究拠点であり、その400ヘクタールに及ぶ敷地内には、CEA、CNRS以外にも有数の研究機関が集まり、世界屈指の研究統合拠点を形成しています。

今回の研究連携協定では、慶應義塾大学工学部とGIANTに参画する機関とが研究開発、人材育成および産業振興等に関し、相互に連携・協力することにより、特にマイクロ・ナノテクノロジー研究分野における科学・産業の発展に貢献することを目指します。

協定に基づく連携協力事項として、各機関の研究グループが合意する協定プログラムに従って行われる定期的な会合、意見交換を通じて、共同研究の推進、技術情報の交換、研究者等の相互派遣による研究交流・人材育成等、相互の研究リソースを活用した連携を行います。

連携推進の体制として、慶應義塾大学工学部とGIANT双方から連携コーディネーターを選任し、協同事業の実施状況の管理から将来的に行う協同事業の可能性探索ならびに双方で取り組む主要研究課題の選定や共同研究・開発プロジェクトの遂行状況の管理を行います。

GIANT参画機関との研究連携協定は、日本においては今回が初となります。今後は、この研究連携協定を契機に、CEAやCNRS以外のGIANTに参画するフランス国内の研究機関や大学と、日本国内の各大学との連携へとネットワークを拡大し、日本・フランス間の最先端国際研究連携拠点の形成に寄与することを目指してまいります。

*ご取材の際は、事前に下記までご一報下さいますようお願い申し上げます。

*本リリースは文部科学記者会、科学記者会、各社科学部等に送信しております。

本発表資料に関するお問い合わせ

慶應義塾広報室(竹内) Tel: 03-5427-1541 Fax: 03-5441-7640

E-Mail: m-koho@adst.keio.ac.jp



2014年、理工学部創立75年。